



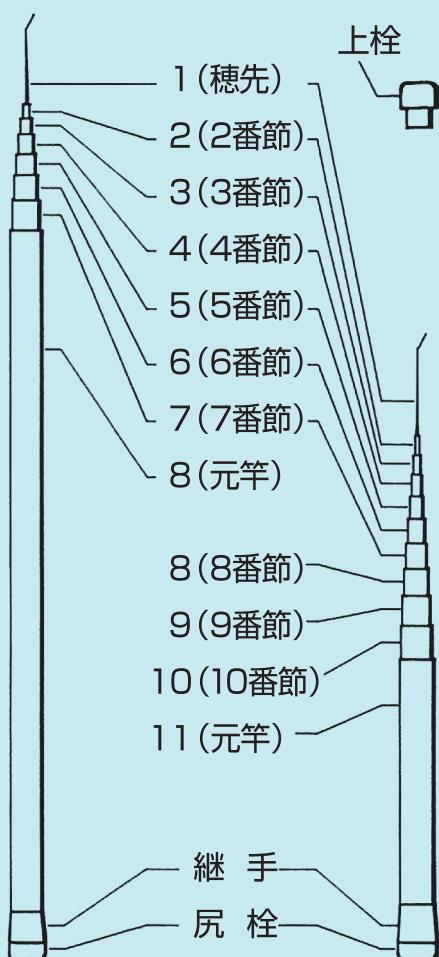
がまかつ フィッシング・ロッド 取扱説明書

このたびは、がまかつフィッシングロッドをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本製品を正しくご使用いただくために、ご使用になる前によくお読みください。なお、後日必要な時のためにお読みになった後は、大切に保管ください。

GAMAKATSU FISHING ROD

各部の名前と仕様

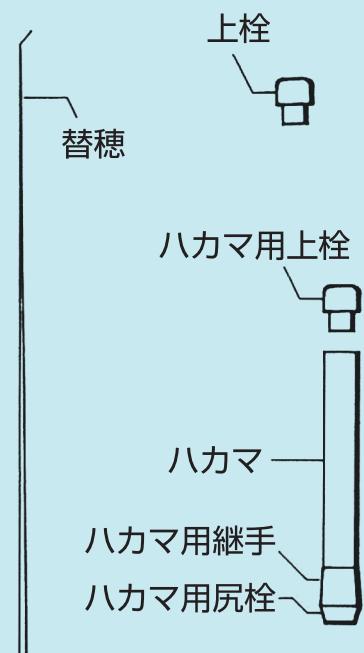
ガイド無し(振出)ロッド



●イラストは長竿(8本継)と短尺竿(11本継)で説明されています。

●主な対象機種としては、鮎、渓流、清流、鯉竿があります。

●別途に替穂先、替ハカマが付いているものもあります。

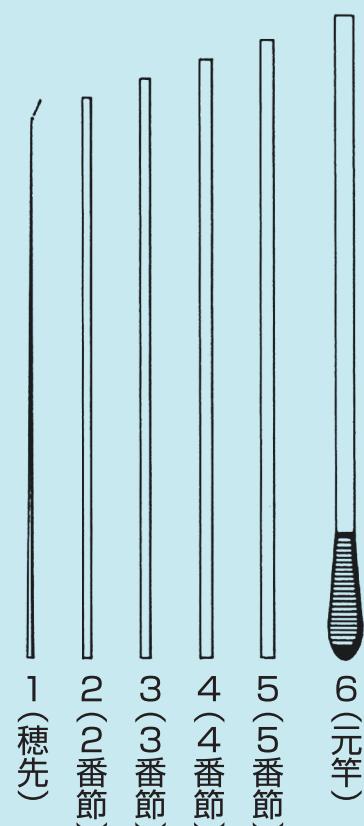


ガイド無し(並継)ロッド

●主な対象機種としては、へら竿があります。

●ロッドの曲がりについて

現在のロッド生産技術上、カーボン、グラス等の素材の違いを問わず各部分に発生する若干の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては素材纖維自体の持つ強い剛性により、ロッド全体が垂れ下がらないため、従来のグラスロッドに比べて若干の曲がりがどうしても目立ちやすくなります。強度機能上は問題ありませんので若干の曲がりはご了承ください。



修理及び部品請求の際は、この名称をお使いください。

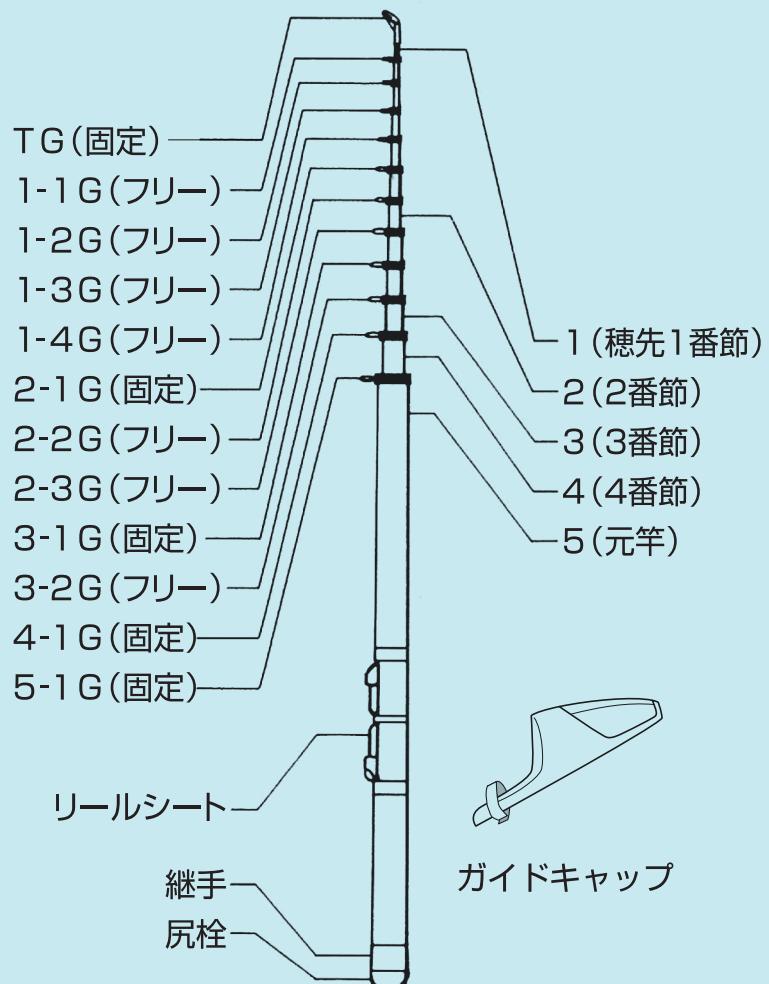
各部の名前と仕様

ガイド付(振出)ロッド

- 主な対象機種としては、磯、投、船、ルアーロッド等があります。

- イラストは一般的な磯竿(5本継)で説明されています。

TG=トップガイド
G=ガイド

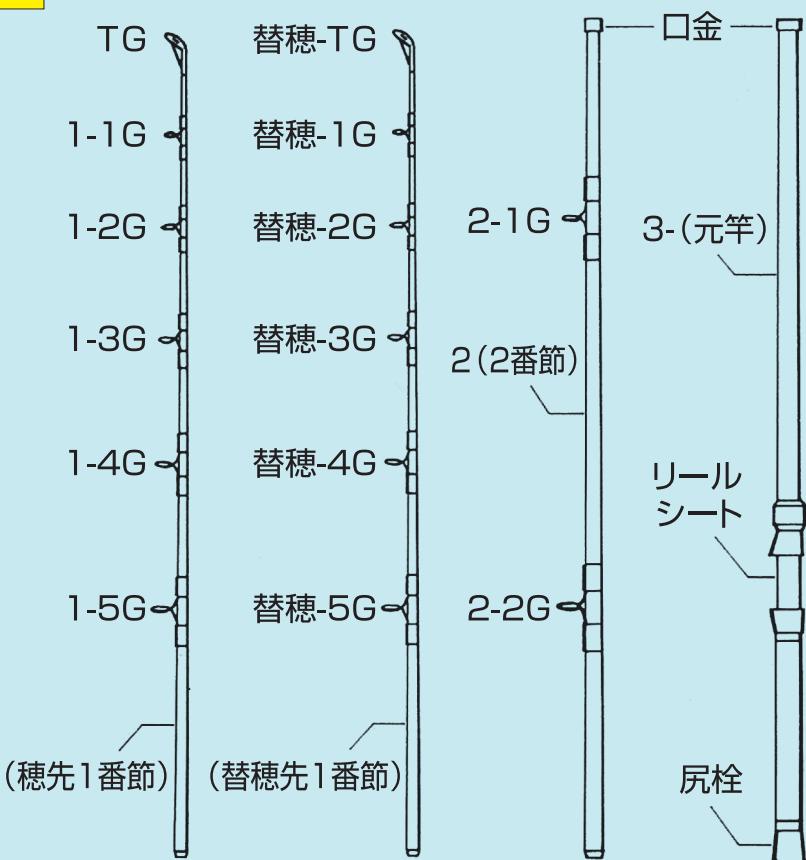


ガイド付(並継)ロッド

- 主な対象機種としては、磯、投、船、ルアーロッド等があります。

- イラストは、船竿(3本継)替穗付で説明されています。

TG=トップガイド
G=ガイド



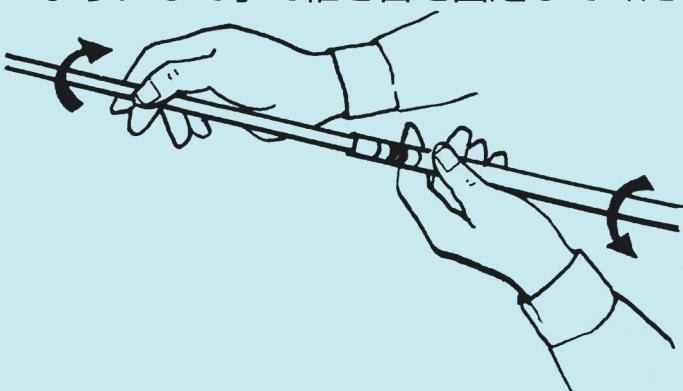
使用上のご注意

■ 伸ばし方、納め方

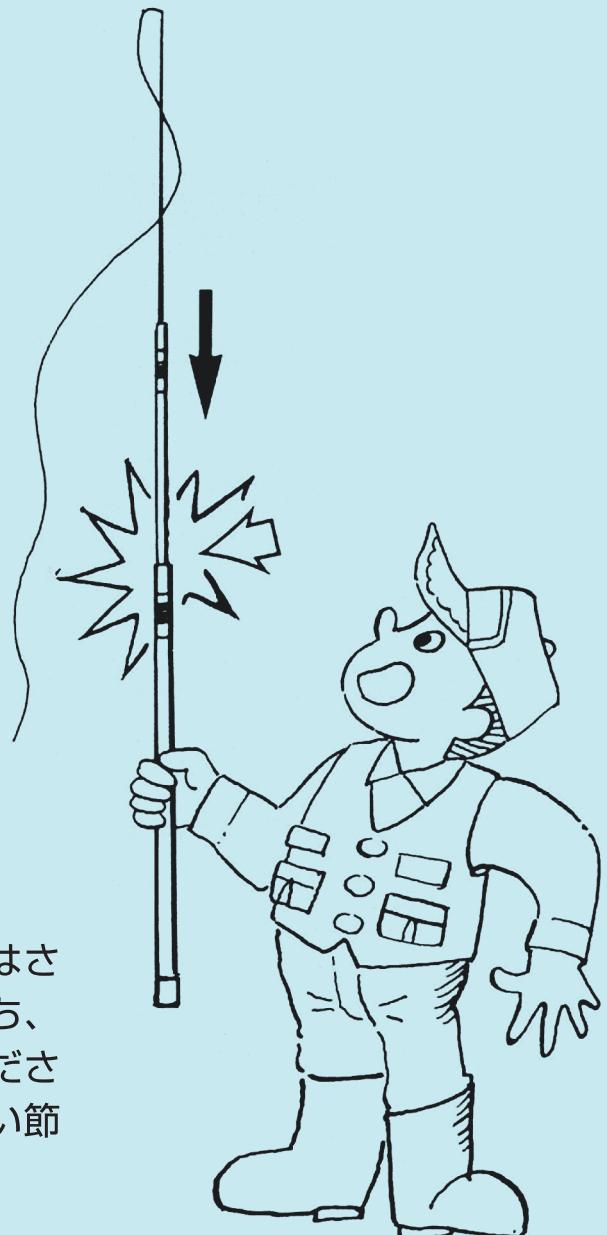
ガイド無し(派出)の場合



- ロッドを伸ばす時は、穂先から順に1本ずつ伸ばしてください。伸ばす際には、各節の継ぎ部をねじるようにして手で継ぎ目を固定してください。



- ロッドを強く引き伸ばしすぎたり、一度に振り出しますと竿を納めるのが困難になる場合があります。特にロッドが雨などで濡れている時には充分ご注意ください。



- 単に引き伸ばすだけで固定が不完全な場合は、竿を立てた時など上の継ぎ番が落下して玉口(細径先端部)を破損するおそれがあります。

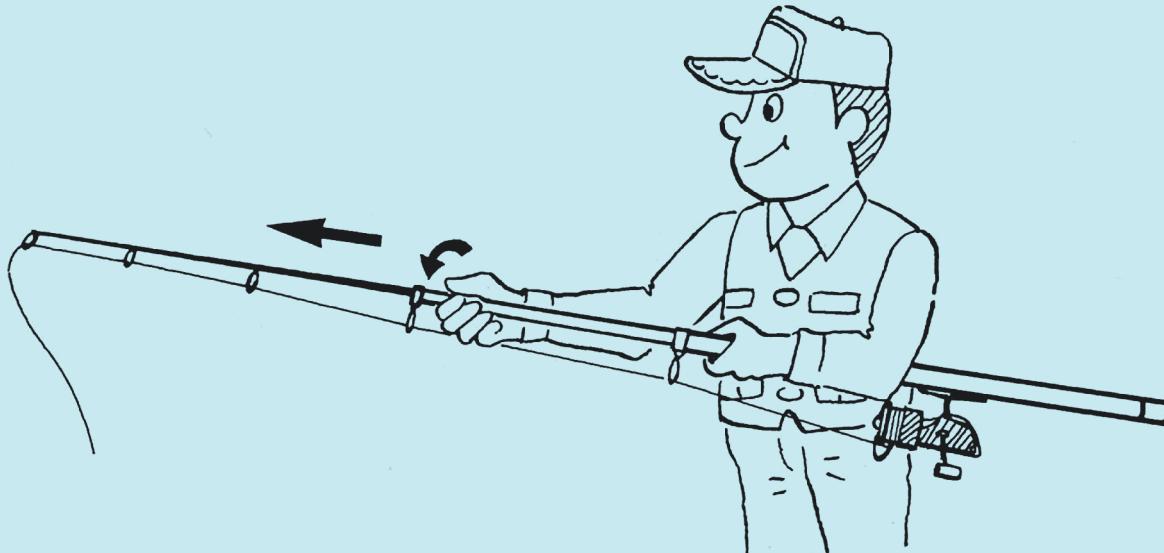
- 収納は必ず元竿から順番にロッドを小脇にはさむようにして継ぎ目近くの両側を両手で持ち、ねじるように押し込みゆるめて収納してください。1番、2番等細い方から収納すると太い節の間に入り込むなど破損の原因になります。

使用上のご注意

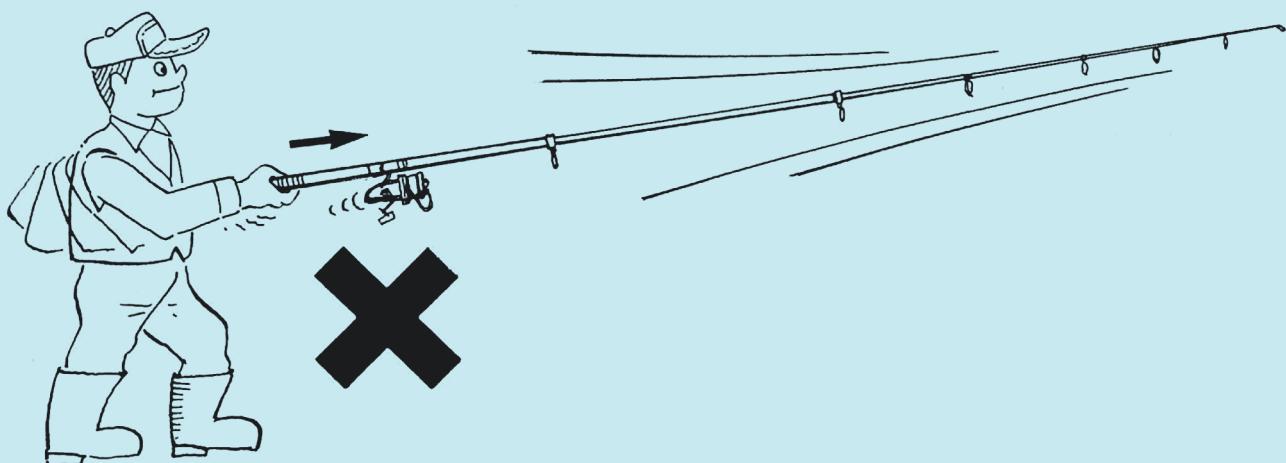
■ 伸ばし方、納め方

ガイド付（振出）の場合

- 竿を伸ばす時は穂先から順に1本ずつ継ぎ部をねじるようにしてガイドリングを一列に揃えて、手で継ぎ目を固定してください。

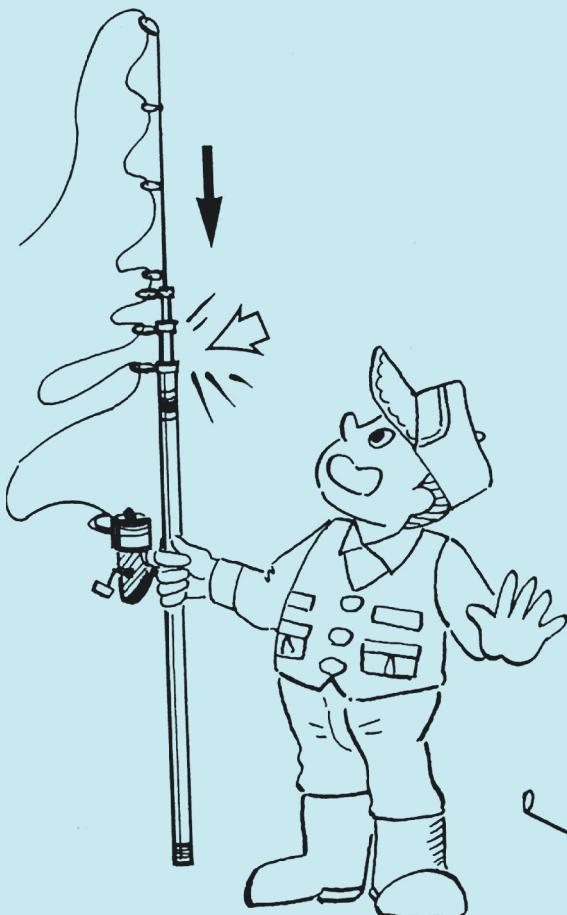


- ロッドを強く引き伸ばしすぎたり、一度に振り出しますと竿を納めるのが困難になる場合があります。特にロッドが雨などで濡れている時には充分ご注意ください。



- 収納は必ず元竿から順番にロッドを小脇にはさむようにして継ぎ目近くの両側を両手で持ち、ゆっくりねじるように押し込みゆるめて収納してください。

使用上のご注意



- 単に引き伸ばすだけで固定が不完全な場合は、竿を立てた時など上の継ぎ番が落下し、破損するおそれがあります。

■ 伸ばし方、納め方

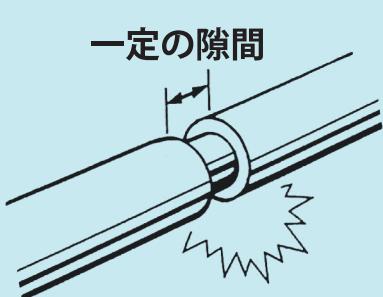
ガイド付（並継）の場合



- ロッドを伸ばす際は穂先から順番に軽くねじるような要領で、ガイドが一直線上に並ぶように継ぎ足してください。

その際挿入側節に砂などの異物が付いていないか確認してください。口割れの原因になります。

- 収納は必ず元竿から順番に、ロッドを小脇にはさむようにして継ぎ目近くの両側を両手で持ち、ゆっくりねじるようにゆるめて収納してください。



印籠（インロウ）継ぎ

- インロウ継合せは、素材樹脂の収縮膨張による、機能上のゆるみ防止のために、一定の隙間が開くように設計されておりますので無理に押し込まないでください。
(インロウ及び差込側内面の加工は絶対にしないでください。)

使用上のご注意



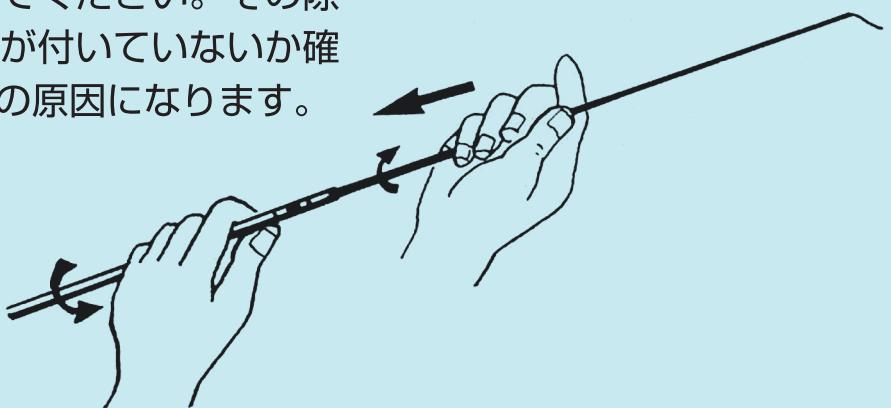
- 収納の際一気に力を入れて押し込んだりしますと、竿に手をはさんだりしますのでご注意ください。



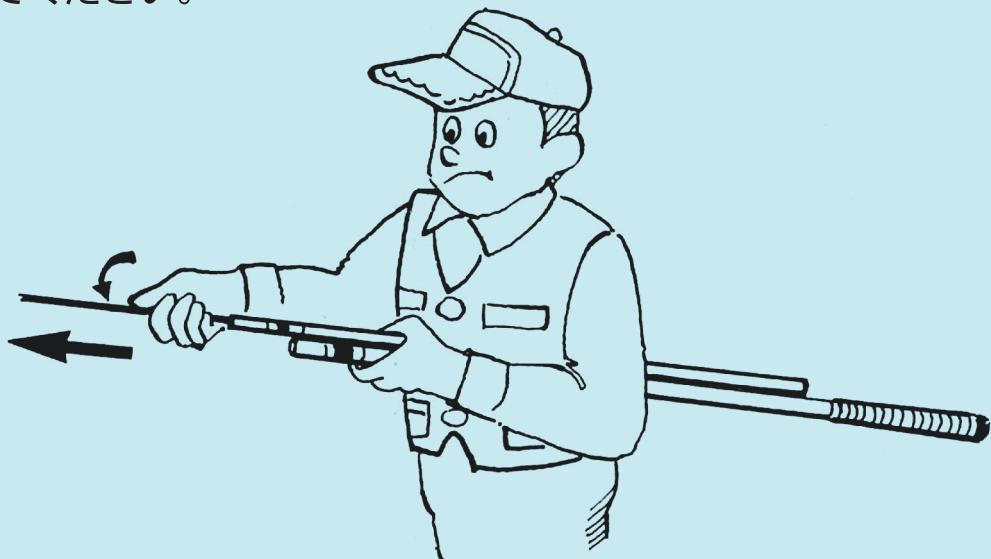
伸ばし方、納め方

ガイド無し(並継)の場合

ロッドを伸ばす際は穂先から順番に軽くねじるような要領で継ぎ足してください。その際挿入側節に砂などの異物が付いていないか確認してください。口割れの原因になります。



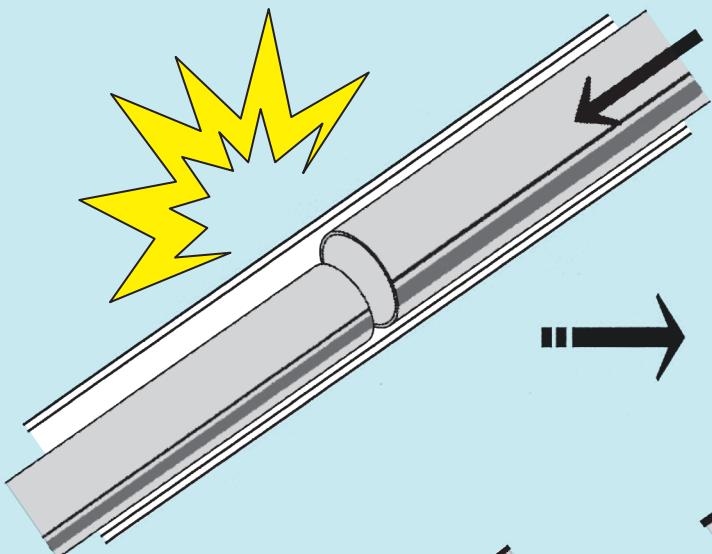
- 収納は必ず元竿から順番に、ロッドを小脇にはさむようにして継ぎ目近くの両側を両手で持ち、ねじるように直線的にゆるめて納竿してください。



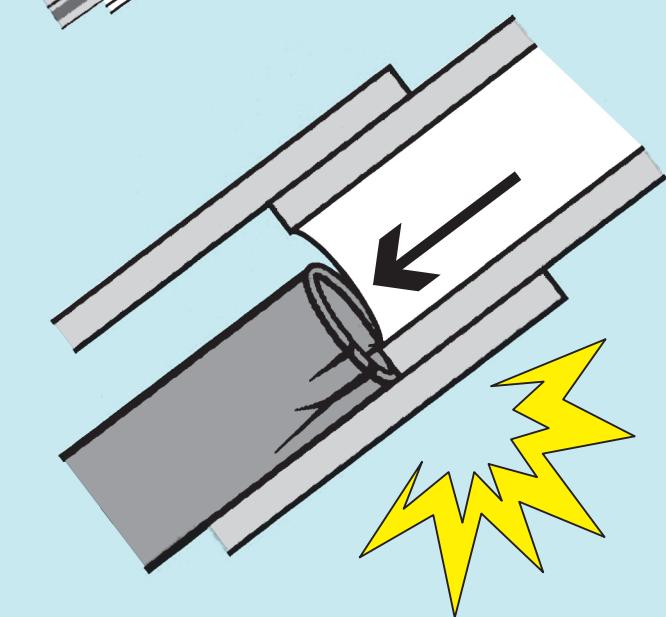
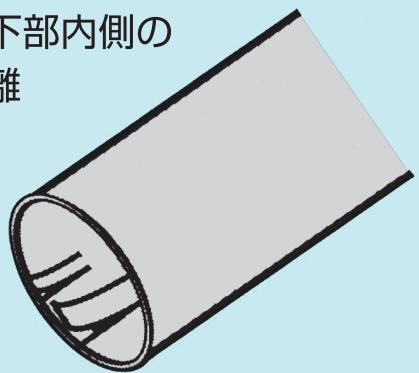
使用上のご注意

■ 節落ちした時-1

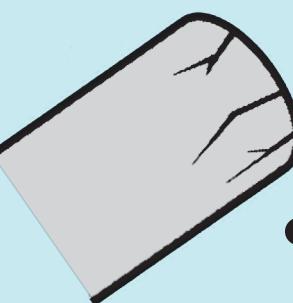
ガイド無し振动竿の場合



●太い方の
最下部内側の
剥離



●細い方の
玉口最上部の破損



●ロッドの上部の細い節が落ち込んだ瞬間、後から途中の太い節が落ち込むと図のようなトラブルが生じます。伸ばし方がゆるいと、途中の継ぎ目から落下してしまいそれを伸ばそうとして、玉口や竿の内面を傷つけてしまう場合がありますので、ご注意ください。

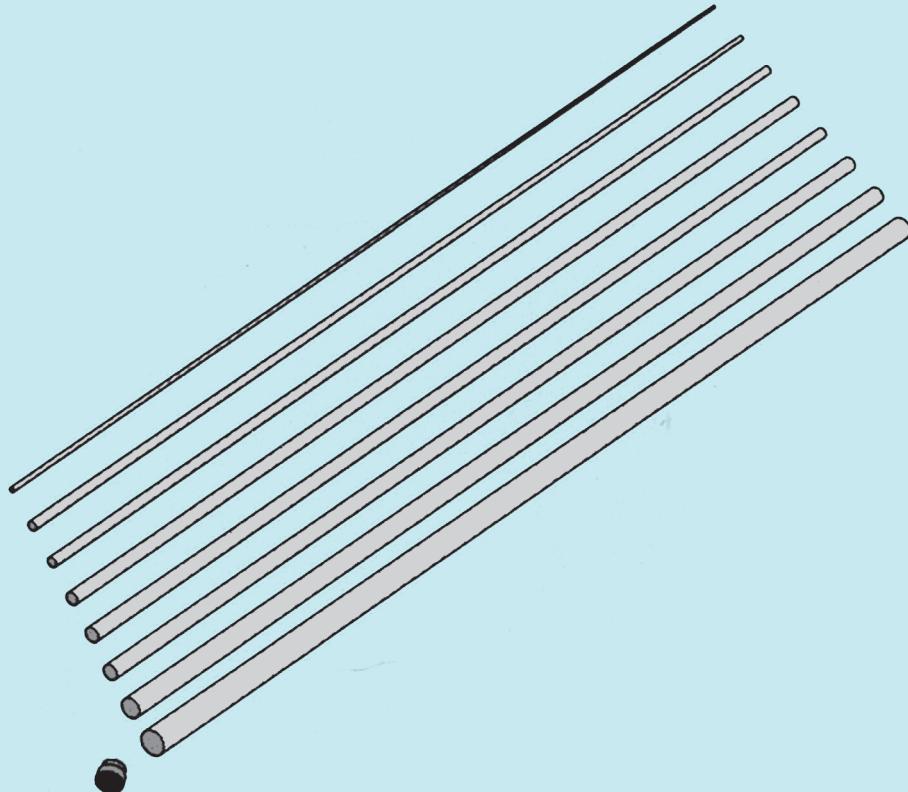
使用上のご注意

■ 節落ちした時-2

ガイド無し派出竿の場合



- 細い節の上部外面に、後から落ちてきた太い節の下部内面接触し、互いに破損し合い、傷や剥離が発生します。
- また、途中の継ぎ目から落下した竿をそのまま引き伸ばさないでください。これも破損の原因になります。
- 落ちた節を伸ばそうとして引き出す時は、同様の接触が起きます。節落ちについては完璧に防止する手立てはありませんが、対策としては、使用中に何度か竿を伸ばし直して、ゆるみをとて下さい。又、節落ちが起きたら無理に引き出さず、尻栓を外して一度中節を全部抜き出し、バラバラにした上で再度継ぎ直してください。

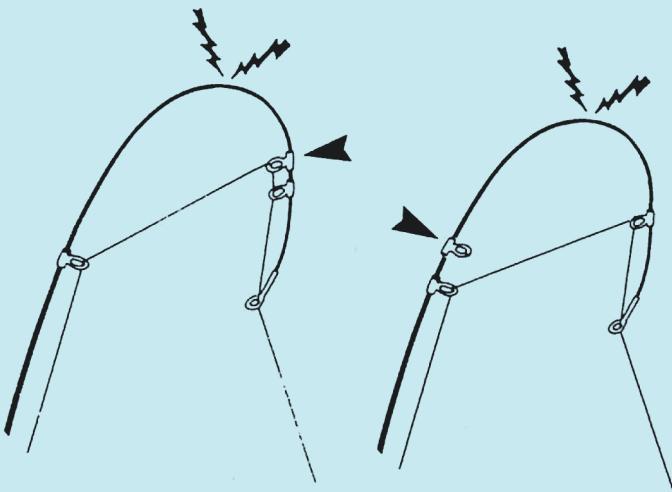
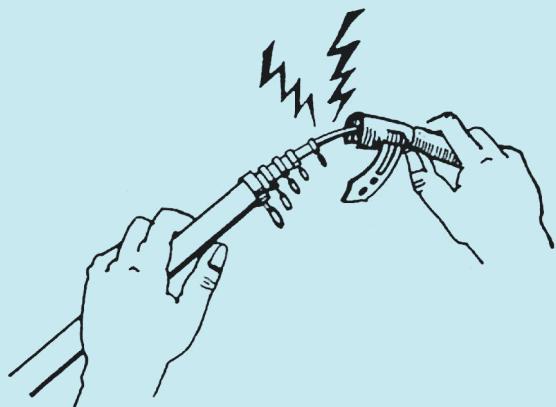


栓を外して全部抜き出し、必ずバラバラにして継ぎ直すようにしてください。

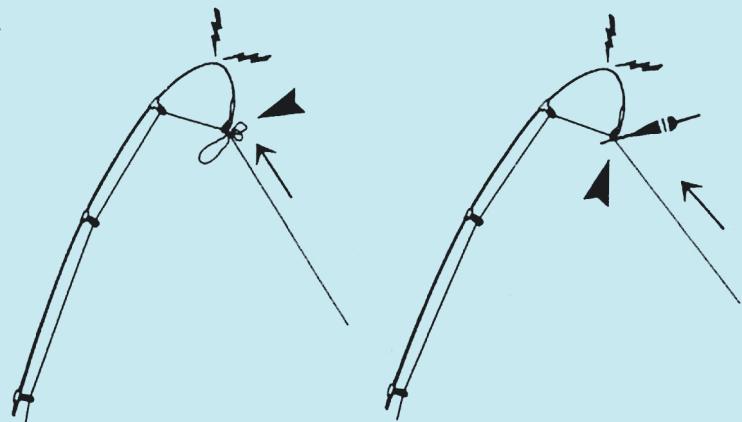
使用上のご注意

ガイド付の場合

- ガイドキャップを外す際には、無理にひねったり、こじったりすると穂先・#2等を折ることがあります。真上に引き抜くように外してください。



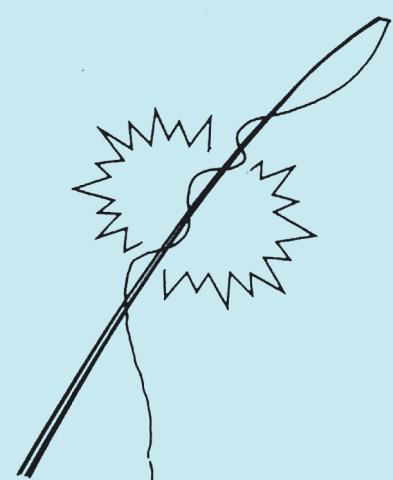
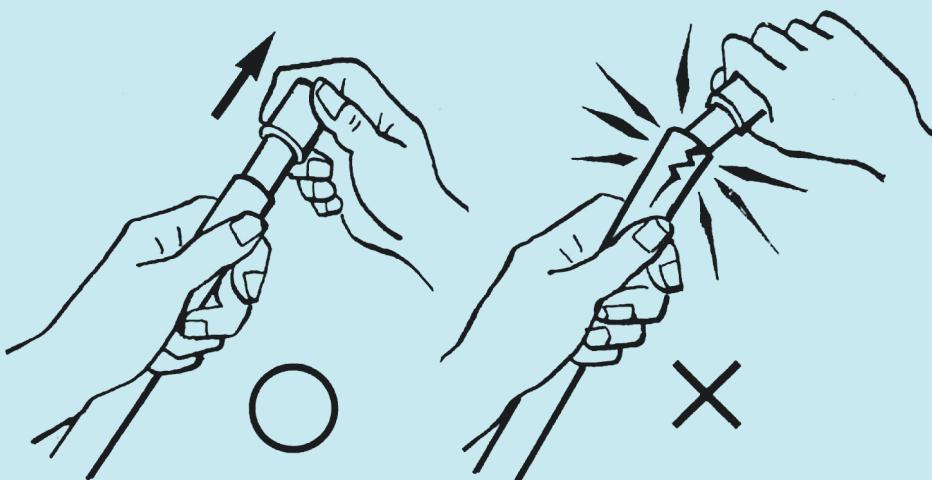
- フリーガイドが完全に固定されていなかったり、ガイドに糸を通し忘れたときなど竿を折ることがあります。



- 糸がらみしたままで無理に糸を巻き込まないでください。
穂先、糸の状態を十分に確認して無理に糸を巻き込まないよう注意してください。

ガイド無しの場合

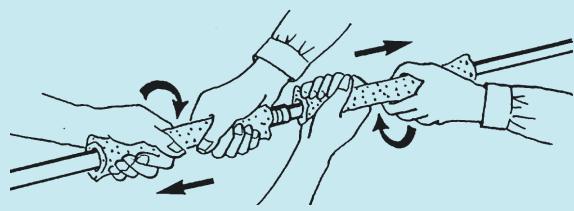
- 上栓を外す際やはめこむ際、無理にひねったりこじったりすると、玉口を傷つけることがあります。
- 糸がらみしたままで使用しないでください。



使用上のご注意

■ 固着した時

並継竿の場合



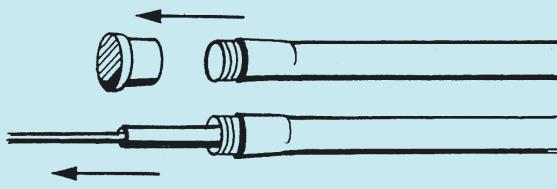
- 振出竿と同じ要領で二人向かい合って固着した継ぎ目の近くをゴムシート等のスベリ止めを当てて図のように握り、お互に逆方向にゆっくり、ひねりながら引き抜いて継ぎ目をゆるめてください。
- 固着は、水が付着した時や、投げた時の力、魚の強い引きなどによっても起きることがあります。万一の場合、上記の要領で行ってください。それでもうまく外れない時はあまり無理をせず、お買い上げの販売店または、がまかつお客様センターにお問い合わせください。
- その他
継ぎ目に砂などが入った場合は、振出竿は元竿の尻栓を外し、一本一本丁寧に抜き出して竿の内側を手入れしてください。またガイド付の場合は尻栓を外し、水圧で砂を出すように水洗いをした後、風通しの良い場所で充分日陰干しをしてください。

振出竿の場合

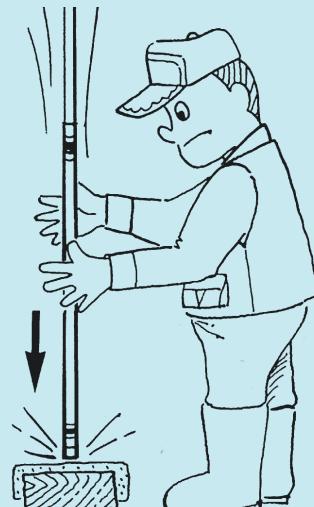


- 二人向かい合って固着した継ぎ目の近くをゴムシート等のスベリ止めを当てて図のように握り、お互に逆方向にゆっくりひねりながら押して継ぎ目をゆるめてください。この時に、一気に力を入れて押し込みますと、ロッドの継ぎ目に手をはさみ、ケガをする恐れがありますのでご注意ください。

ガイド無し振出竿の場合



- 先ず、元竿の尻栓を外し、固着していない部分を、必ず抜き取ってください。板面等のあまり硬くない水平面に垂直に立て、元竿や仕舞い込んだロッドを誘導管にして固着したロッドをストン、ストンと垂直に落とせば意外と簡単に外れます。その際、タオル等を敷いておけば端面を傷つけにくくなります。元竿が固着した場合、必要以上の力で落としたりしますと継手などの破損を起こす場合がありますのでご注意ください。



使用上のご注意

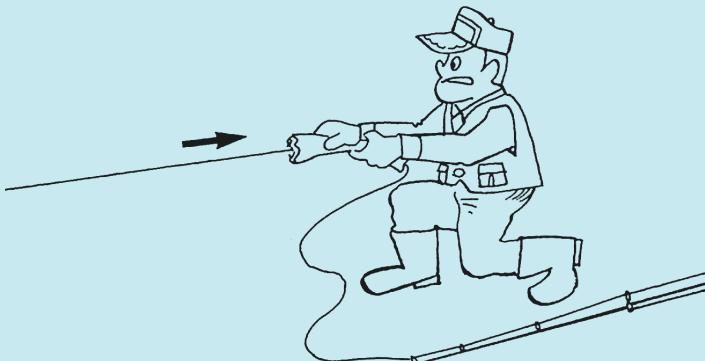
■ロッドホルダー・ロッドクランプをご使用の場合

ロッドホルダー及びロッドクランプの使用時において強い締め付けを行いますと、締付部（素材等）の破損が生じる恐れがあります。この様な破損による損害について当社としては補償しかねますのであらかじめご了承ください。

■根掛かりした時

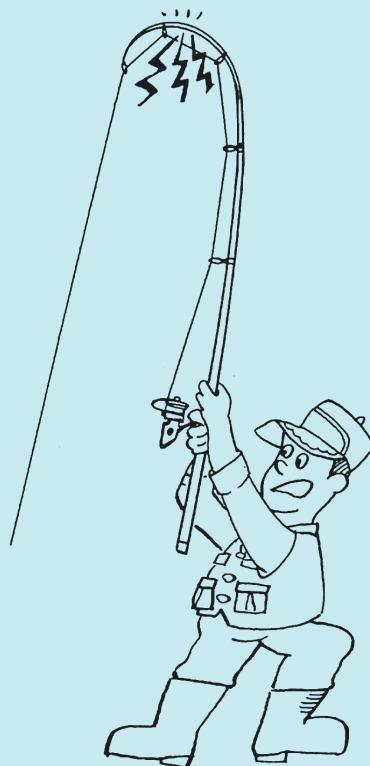


- 水中あるいは陸上での障害物に仕掛けが絡み根掛かりした場合、むやみに竿をあおらないでください。竿を破損することがあります。また破損した竿でケガをする恐れがあります。根掛りは糸を手にとって切ってください。その際、糸で手を切る場合がありますので手袋やタオルで手を保護してください。また切れた仕掛けが飛んできて、ケガをする場合がありますので充分ご注意ください。



無理な場合はラインを
切断してください。

- 不用意に垂直方向に抜き上げると竿の一部に荷重が集中し破損の原因になります。



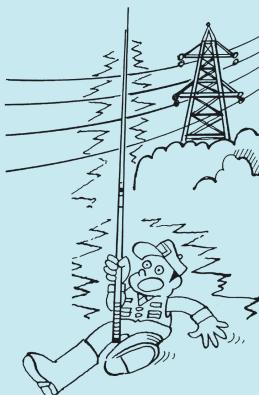
安全上のご注意 ご使用の前に必ずお読みください



高圧線への接近による放電や感電、さらに落雷による感電は、最悪の場合重大事故(感電死)を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意願います。

①電線との接触による感電

高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触または、



釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。

②落雷による感電

落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ安全な場所に避難してください。落雷による感電死を招く恐れがあります。



③釣り場以外の電線による感電

釣り場以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。感電による感電死を招く恐れがあります。



危険 気象条件により、空気中に電気を帯びている場合があります。ビリビリと電気を感じるのはその為です。天候の変化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。

警告 キャスティング(投げる)時の警告

振り込み時は周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ウキ、オモリが人に当たると非常に危険で、重大事故に繋がる恐れがあります。

注意 幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故やケガに繋がる恐れがあります。



注意

破損時の取り扱い方



使用中、万一竿が破損(折れ、割れ、欠け、剥離)した場合、破損した箇所の破片で手などケガをする恐れがありますので触れないでください。



竿を釣りの目的以外に使用しないでください。竿が折れ、ケガの原因になります。



竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れことがあります。折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、ケガをする恐れがあります。



安全に釣りをして頂くために
万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、ケガをする恐れがあります。釣りをする際には、安全のためサングラス(偏光グラス)、帽子の着用をお勧めします。

使用上のご注意

危険 警告 注意



この表示がある欄では、誤った使い方をすると「死亡または重傷」「傷害または物損」が発生する可能性があります。

使用後のお手入れ方法とその他のご注意

⚠ 注意

- タワシ、みがき粉、ベンジン及びシンナーの使用は絶対に避けてください。竿の塗装面及び時には竿まで傷める原因となります。

※ 竿の汚れは、真水で洗った後に、乾いた布で拭き取ってください。



- ※ 市販のロッドクリーナーやワックス等は、ご使用にならないでください。塗装面を傷めたり、色落ちする恐れがあります。また、固着の原因となりますので、ワックスや潤滑油を節の合わせ部に塗布しないように注意してください。

- ご使用後、竿を濡れたままの状態で保管しないでください。次回のご使用時に固着を引き起こすことがあります。竿が濡れた場合は必ず、節を一本ずつ伸ばした状態で陰干してから保管してください。

- 乾燥等で節を立てかける際は絶対に倒れない様にしてください。折れの原因となるクラック(ヒビ)や破損の恐れがあります。

- ご使用後は安全な状態で竿を保管してください。倒れたり、他のものとぶつかったりすると、破損することがあります。

- 車のトランク等に長期間放置しないでください。高温、密閉状態での長期間放置は竿の大敵です。

● ブリスター(水ぶくれ)の防止

汚れたまま竿を密閉状態にすると、竿内の水分により塗装面に水ぶくれ状のツツツが発生します。これを防止するには、水分を十分拭き取り、風通しの良い場所に陰干して水分を完全に取ってください。また、車のトランクルームなどに長期間放置しないでください。高温・密閉状態での放置はロッドの大敵です。

● 腐蝕錆の防止

汚れたままの状態にするとメッキ面、その他の加工処理面の自然退色及び金属部分の腐蝕により、尻栓等に不具合が発生することがあります。これを防止するには、塩分、水分、ゴミ等を完全に拭き取ってください。また、尻栓を外して陰干して、水分を完全に抜いてください。

⚠ 注意

※ 自重は、素材・塗料・部品等により、ばらつきますので標準自重で表示しております。

※ 全長は合わせの深さ等により、ばらつきますので標準全長で表示しております。標準自重・標準全長、その他の仕様も公正競争規約に基づく表示をしております。

※ 竿は一本一本手作業で仕上げられています。そのため商品により多少の色、質感のバラツキが生じる場合がありますのでご了承ください。

※ ご使用になられた頻度、または外的要因により発生した不具合(塗装、メッキ、その他の加工処理面の自然退色、腐蝕、剥離、こすれ傷等)は保証期間内であっても有償となる場合があります。

- カタログ表示の「適正ハリス」「錘負荷」は、竿をお選びいただく際の慣例上の目安であり、強度を表したものではありません。

- 竿のしなりに、糸巻き厚塗り部の伸びがついていけず、糸目に沿ってヒビが入る場合がございますが、基本機能(ガイドやシートの固定力)に問題はございません。現在の技術では糸巻き厚塗り部のひび割れを完全に防止することはできません。

● 竿の曲がりについて

現在のロッド生産技術上、グラス、カーボンなどの素材の違いを問わず、各部分に発生する若干の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。また、柔軟さを追求したタイプの竿では、強く曲げられた場合などに曲がり癖が残ることがあります。強度機能上は問題ありませんので若干の曲がりはご了承ください。

- ご使用中の破損事故を防ぐために、ご使用にならない時も安全な状態で保管ください。

- 強風時に竿をあおったり強く振り込んだりすると、竿の限界強度を超え破損しますのでご注意ください。

- 固い地面(河原や防波堤、岩場など)に直接竿を置くと破損の原因となる傷がつきますのでご注意ください。

- 当て傷のついた竿は折れやすくなっていますので注意してください。特に、塗装面を通り越した傷がある場合は、強度低下を起こしていますのでご注意ください。

- 元竿等に処理してあるスベリ止め加工は使用条件にも異なりますが、紫外線劣化等で剥がれることがありますので、ご了承ください。

- リールを取付ける際は、ガタがないようしっかりと固定してください。力がかかった時にリールが外れて落下し、傷付いたり故障、紛失の恐れがあります。